

ボランティアによる読書活動の推進

八重畑保育園



八重畑保育園では、感情豊かな、思いやりのある優しい子どもに育つことを願って、本にふれる機会を大切にしています。本が大好きな子どもたちは、月に一度、八重畑地区の読み聞かせボランティア「アインブーフ」の皆さんが訪問してくださるのをとても楽しみにしています。

子どもたちは、「アインブーフ」の皆さんの読み聞かせが大好きで、瞳を輝かせて聞いています。子どもたちの心の育成に一役を担っていただいています。



昔話の世界を深く味わって欲しいと願い、紙芝居の作成にも取り組んでみました。これからも子どもたちのために、読み聞かせ活動を続けていきたいと思ひます。

(アインブーフ代表 小原 康子)



「アインブーフ」とは、ドイツ語で「一冊の本」という意味です。一冊の本を通して子どもたちに夢や希望を届けたいという願いから名づけられました。

「アインブーフ」の皆さんが、八重畑コミュニティ会議と八重畑小学校が協力しながら作成した『蛇ぬめり伝説』は、地域の伝説を題材にした紙芝居です。ちょっと怖いお話でしたが、子ども達には好評で、実際にお話に出てきた所を見に行った子どももあつたほどでした。



畑の先生と一緒に野菜作り

上瀬保育園



上瀬保育園では、地域の「畑の先生」に教えていただきながら、沢山の野菜を栽培しています。「畑の先生」は、畝立てをしてくださったり、苗の植え方・お世話の仕方を教えてくださったりします。子どもたちは、野菜のことをよく知っている畑の先生のお話をよく聞き、上手に作業を進めています。

農家の多いこの地域でも、野菜作りの経験のない子どもが多く、園での体験をきっかけにお家でお手伝いをしたり、嫌いな野菜を食べるようになったり、子どもたちにとって、よい刺激になっています。

先生方が、畑作りをしているのを見かけて声をかけたのが、きっかけで、園と関わるようになって、5年程になりました。

子どもたちは、嬉しそうに一生懸命作業をします。一緒に作業をしながら、子どもたちに元気をもらっています。

(多田 義洋)

畑の先生に土のかけ方を教えてもらいました。さら〜と土をかけて、トントンとしました。おいもができたならシチューに入れて食べたいです。(太田代 美憂)

じゃがいもが早く大きくなるといいなあと思って、土をかぶせました。じゃがいもができたなら、焼いて食べたいな。

(菅原 鏡平)



今年は、近所の方のご配慮により、畑の菜の花摘みをして、みんなでおいしくいただきました。